



CLARA GURJÃO / ELA



代ブラジル音楽勢をバックに伸びやかに華やいだ雰囲気振りまくカリオカの女性S.S.W. クララ・グルジャォンのデビュー盤。

サンバ・グループ - カビーチ・ヂ・モランボのギタリストとして、ヴィオレイロス・ウルバノスの vo.g として、またシンガーとして自身のサンバ・ジャズ・トリオを率いていたクララ・グルジャォンは現在 28 歳。近年行われたショー・シリーズ、ニベア・ヴィヴァ・トム・ジョビンの企画でマエストロ - エウミール・デオダートのアシスタントとして編曲を手伝ったりしたことから、本作の参加メンバーらと知り合い、アルバム制作に至っています。ヴィンテージ感を醸し出す楽器類を操るのは、ダニロ・アンドラーヂ(key)、カシン (b)、マルセロ・コスタ (drs)、ステファン・サン・ジュアン (drs) に、ド・アモールやエルマーノスのサポートで活躍するガブリエル・ブブ(g)ら。楽しそうに歌っているその表情が目には浮かぶほどに華やいだ雰囲気のメロウなブルーアイド・ソウル、ブリージンな自作曲群に、ep のハーモニーを得てアーバンに姿を変えたカエターノ・ヴェローゾ "Muito"(m-5)、エルネスト・ドゥアルチ・ブリート作の m-11 "Como fue" を収録。ブラジルのアーバン・シティ・ポップといった風情に、現代 MPB の好盤に挙げられること必至。ショーはキャバレー調にショーアップすることで知られるシルヴィア・マシェッチが監修しており、このフェミニンな魅力にも頷けます。

Fonte: <http://www.taiyorecord.com/?pid=101239506>